

学校だより 2月号



赤見台第一小学校

鴻巣市赤見台4-19-1

<http://aka1-e.konosu.edumap.jp>

令和4年1月31日(月)

TEL 048-596-1688

FAX 048-597-0265

赤見っ子

学校教育目標

(あ) 明るい心で 助け合う子

(か) 体も心も たくましい子

(み) 自ら学ぶ かしこい子

～テキパキにこにこ赤見っ子～



コロナに負けず 心豊かに生きたい

校長 大澤 紀子

2月3日は節分です。豆まきをするというご家庭も多いでしょう。翌日は立春、暦の上では春が近づいているということですが、まだまだ寒い日が予想されます。3学期が始まり、新型コロナウイルス感染症の拡大が大きくなっています。学校では、感染予防対策を強化しながら、同時に教育活動もしっかり進めていけるよう取り組んでいます。ご家庭でも手洗い・うがい、健康チェックの徹底などをお願いいたします。

さて、1月以降新型コロナウイルスの感染者が爆発的に増えてきて、テレビやネットのニュースでも感染者数の推移等、感染症に関する話題ばかりです。不安やネガティブな気持ちになってしまうことが多いですが、そんな時こそ音楽を聴いたり、読書をしたり、散歩をして自然の移り変わりを感じたりする時間を大事にし、心を潤すことができればと思っています。

今日は、節分にちなんで、『おにたのぼうし』（あまんきみこ作）という本を紹介します。11月の全校朝会で「校長先生の好きな本」として全校児童にリモートで読み聞かせをしたものです。

節分の日の夜のお話です。

まことくんの家の物置小屋の天井に、くろ鬼の子どもが住んでいました。名前は「おにた」。おにたは、気のいい鬼でした。まことくんのなくしたビー玉を拾ってくれたり、お父さんの靴をピカピカに光らせてくれたりしたのですが、誰もおにたがしたとは気づきません。誰にも気づかれないように用心していたのです。

節分の夜、まことくんは豆まきをします。豆まきの音を聞きながらおにたは思います。

(人間っておかしいな。鬼は悪いって決めているんだから。鬼にもいろいろあるのにな。人間にもいろいろあるように。)

おにたは、まことくんの家を出て、別の家を探しました。ひいらぎのおいてない、トタン屋根の家に行きました。その家には、病気のお母さんと看病をしている女の子がいました。女の子は、食べる物もなかったのに、お母さんに心配かけないように「知らない男の子が持ってきてくれたの。赤ごはんとうぐいす豆よ。きょうは節分でしょ。ごちそうがあまったって。」とうそをつきます。

それを聞いた、おにたは、寒い外へ飛び出していきました。しばらくすると、家の入口に、麦わら帽子をかぶった男の子が、ふきんをかけたおぼんをもって立っています。「節分だからごちそうがあまったんだ。」と言って男の子が差し出したのは、赤ごはんとうぐいす色のにまめです。女の子の顔が、ぱっと明るくなりました。

女の子は、はしをもったまま言いました。「わたしも豆まきしたいなあ。鬼が来ればお母さんの病気が悪くなる。」それを聞いたおにたは、悲しそうに身ぶるいして言いました。「おにだっているいろいろあるのに。おにだって・・・。」

氷がとけたように急におにたはいなくなり、残った帽子の中には黒い豆がありました。女の子は、その豆で「おには外、福はうち」と豆まきをしながら、「あの子はきっと神様だね。」とかんがえました。

私は、このお話が大好きなのですが、どうお感じになりますか。きっといろいろな感想があると思います。1冊の本から広がるいろいろな思いを大事に、子供たちの心が豊かに育ってほしいと願っています。

感染症予防のために家庭で過ごす時間が増えていると思います。前向きで心豊かな時間がもてるよう、工夫しながら過ごしていきたいものです。おうち時間の中で、子供たちが読書で心を広げてくれたら嬉しいです。